

「牛の歩みでも・・・」

去年は、食の安全を問われた年でした。その発端は、北海道にある業者の偽装牛肉ミンチ事件でした。そして、菓子の賞味期限改ざん、老舗高級料亭の牛肉産地偽装とドミノ倒しのように露見していきました。なかでも、牛肉に関する問題は、狂牛病のこともあり、マスコミなどに大きく取り上げられました。

現在、牛は牛肉、牛乳、バター、チーズ、ヨーグルトのみならず、くつやバッグなどあらゆる部位が有効に使われ、私たちの生活に無くてはならない動物です。しかし、牛が私たち日本人の食用として認識されるようになったのは、明治以降のことで歴史的にはまだまだ新しいことです。

出雲神話には、牛飼いの神が牛による農耕を伝えたとあり、牛が古くから家畜として利用され、農耕の労働用として常に身近な存在であることが分ります。また、平安時代の絵巻物には、牛が車を引いている牛車も描かれています。さらに「牛の歩みも千里」「商いは牛のつば」「食べてすぐ寝ると牛になる」など牛の生態やお人よし、鈍重というイメージからできた「ことわざ」が多くあり、人間とのかかわりを感じさせます。

そのほかに、牛というと4つの胃袋が頭に浮かびます。食物を一度に消化することはせず「反すう」という方法で吸収しやすくしています。今年が丑年です。牛にみならい、人を欺かず、何事も反復反省して少しでも前進する年にしたいものです。

表紙の写真は、常磐館六角堂に掛けてあった十二支木彫で、名古屋の彫刻師小澤岩七郎の作です。(昭和17年4月)

目次 Contents

市長年頭あいさつ	3
平成20年を振り返って	4-5
財政状況	6-7
市の人事行政の運営状況をお知らせします	8-11
土地情報	12-15
産業支援奨励金	16
ねんきん特別便にご協力を	17
オーストラリア スタディ・ツアー	18-19
MYスクール・図書館だより	20
まちの達人・読む水族館	21
遊びにおいでよ児童館へ	22
健康カレンダー	23
市民相談	24
お知らせ	25-33
クイズまちがいさがし	34
ふれあい宅配便	35
男女いきいきフォーラム	36
こどもミュージアム	36



樹木医・技術士(建設部門・環境部門) 原野幹義

『越後屋お主も悪よのう〜!』千両・万両・百両・十両

お正月の縁起物に玄関を飾る鉢植えがあります。松竹梅それに赤い実をつけるセンリョウやカラタチバナ(百両)、ヤブコウジ(十両)などが使われます。子供のころ、これらの正月飾りは、古臭い感じがして、華やかなクリスマスツリーの方がカッコイイと思っていました。しかし、齢を重ねるにつれて、特に強く主張するでもない正月飾りに、やすらぎとほのぼのとしたぬくもりを感じるようになりました。



マンリョウ

それぞれの名前の違いは、実の多い順に「両」が付けられています。マンリョウは、縁が縮れた厚ぼったい葉から下向きに深みのある赤や白い実をつけます。センリョウは、明るい広めの葉の上に赤や黄色の鮮やかな実をつけます。ヒャクリョウは、細長い大きな葉の下に大きめな赤や白の実をつけ、葉変わりの多くの園芸品種があります。

時代劇の定番シーンでは、菓子折の二重底に帯止めされた小判が黄金に輝いています。あれは史実でしょうか。それとも誰か脚本家の卓越したアイデアなのでしょう。悪者が一日で分り、黄門様の印籠に負けず劣らぬ、無くてはならない場面です。

わたしは、幼いころ、庭の樹下にヤブコウジの赤い実を見つけ、この木が大きくなったら大きな実となり、それがリンゴなのだと思い込みました。その後、何年たってもヤブコウジは、掌より大きくなることはもちろんありませんでしたが……。



センリョウ